設置の趣旨等を記載した書類

(管理栄養学科)

1	設置の趣旨および必要性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P2
2	学科の特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	Р3
3	学部・学科等の名称及び学位の名称・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P5
4	教育課程の編成および考え方及び特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P5
5	教員組織の編成の考え方および特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	Р9
6	教育方法、履修指導方法及び卒業要件・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P10
7	施設、設備等の整備計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P13
8	入学者選抜の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P13
9	取得可能な資格・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P14
10) 実習の具体的計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P15
11	管理運営・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P17
12	自己点検·評価······	P18
13	情報の公表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P19
14	教育内容等の改善を図るための組織的な研修等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P22
15	社会的・職業的自立に関する指導等及び体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P23

1 設置の趣旨および必要性

1-1 教育研究の理念、目的

本学は創立者寺部三蔵、だいが、創立して107年にわたり「庶民性」と「先見性」を建学の理念と して教育を展開している。「庶民性」とは、一人ひとりの民が豊かになることによって国全体もまた豊 かになる。そのためにも庶民の間に学問を広めるとともに、その成果を庶民の間に還元することで ある。「先見性」とは、来るべき社会・来るべき時代・来るべき文明を想定して、教育の理想を描くこ とができること、その理想像の実現に向けて人材育成のために全知全能を傾注する。また「創立者 は、一人ひとりの潜在能力の無限性を信じ、その可能性の限界までの開発を終生の信条とし、真 心・努力・奉仕・感謝の実践によって自らも幾多の困苦をのり越えて、それを具現化した」、この建 学の理念に基づき学則を定め、教育研究を展開している。学則の第1条では本学の教育の目的と して「建学の精神」の実践を通して、創立者が目指した家政の基礎となる経済的・政治的・文化的 に自立することができる社会人を育成することによって、地域と国際社会に貢献している。「建学の 精神」とは、宇宙の中の一つの生命体である人が、個人として自立しつつ、ありとあらゆる生命体と 共生することによって、生きる意志と生きる力と生きる歓びに満ち溢れた鵬のような大局的な存在と なること。 第2条では、本学の教育目標は、社会的に自立して生きていく上で必要な①スキル・リテ ラシー・教養等に関する一般的知識・技能、②職業に関する専門的知識・技能、③建学の精神・社 会人基礎力・pisa型学力・直観力・自然体を統合的に身に付けて、地域及び国際社会に貢献する 社会人を育成することである。さらに、第3条で「智・徳・体・感・行」に基づいた3つの挑戦プログラ ムから構成される自学・共学システムを開発し、これに基づいて教育を行っている。

家政学部では、本学の教育目標と教育方針の下、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して社会的に自立して生きていく上で必要な①スキル・リテラシー・教養等に関する一般的知識・技能と②家政に関する専門的知識・技能と③建学の精神・社会人基礎力・pisa型学力を統合的に身に付け、社会に出てからは、これらの知識・技能をベースに生涯学習社会の中で自己の潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域の課題解決に貢献できる人材を養成している。また、家政学部は、生活者の視点から「生活科学」「食物・栄養学」「被服学」「住居学」「児童学」の5つの分野を科学的に教育研究している。家庭生活の衣・食・住・子育てと密接に関わり、生活環境の向上を目指し、生活をデザインし、広く社会全体の人間生活の進歩・発展に貢献できる人材の育成を目標としている。

1-2 設置の趣旨

愛知学泉大の前身は女子大として、昭和 41 (1966) 年家政学部家政学科を開設し、家政学の専門知識と技能を持った女性の社会進出に貢献してきた。本学で学ぶ家政学の基本は①人の健康、家族の親切と民主的な関係②精神的な安定③経済生活の安定④適切な教育⑤こどもの出生と教育⑥科学的・芸術的な衣食住⑦伝統の保持と改善⑧地域社会、国家および人類へ貢献し、身体的、精神的、社会的な人間の成長と発達を育成することである。このことより女性の教育研究分野に限らず、家政の基礎となる経済的・政治的・文化的に自立し、地域と国際社会に貢献する人材を

育成する大学として、昭和62(1987)年に家政学部を男女共学とした。平成14年(2002)に家政学専攻、管理栄養士専攻となり、平成20(2008)年こどもの生活専攻を開設した。現在3専攻は、家政学部の教育目標の下、生活者の視点から「生活科学」「食物・栄養学」「被服学」「住居学」「児童学」の5つの分野を科学的に教育研究することにより、家庭生活の衣・食・住・子育てと密接に関わり、生活環境の向上を目指し、生活をデザインし、広く社会全体の人間生活の進歩・発展に貢献できる人材の育成を目指し教育を展開している。

管理栄養士専攻は、管理栄養士の資格を生かして、チーム医療、健康増進・疾病予防、食育・ 栄養指導又は健康をテーマにした食品の研究・開発等で活躍することによって、人々の日常生活 を健康の面から支援することのできる人材の育成を教育している。

厚生労働省は、超高齢化社会を見据え栄養施策の方向性を①健康な食事を入手しやすい環境づくり、②多様なニーズに対応できる栄養ケアの仕組みづくり、③科学的知見に基づく企画・実施・評価のための仕組みづくりとしている。さらに、21世紀の社会は「知識基盤社会」と呼ばれるように(中央教育審議会「我が国の高等教育の将来像」)、加速化するグローバル化と情報化の進展などにより、国を超えて社会の在り方そのものが根底から再構築されようとしている。本学の家政学部も中央教育審議会「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化(答申)」を踏まえ、家政学部の教育を多様化している、様々な需要と管理栄養士に求められる専門知識と技能に的確に対応する教育課程の見直しを行った。

現在の家政学部の教育目標の下、既存の管理栄養専攻の教育課程を、より専門性に特化した教育を実践する管理栄養学科を設置する。

1-2 養成する人材象

管理栄養学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、管理栄養士の資格を生かして、「食」の専門家として疾病治療・重症化予防、疾病予防、食育と食環境を整えるための高度な知識と技能を持ち、人々の日常生活を健康の面から以下の3項目を身に付けた人材を養成する。

- ① 建学の精神、社会人基礎力、pisa 型学力を修得して、職場と地域の人々と協働して課題を解決していくことができる。
- ② 管理栄養士に必要な疾病・疾病予防・食育に関する専門知識・技能を身に付け、豊かな食生活と健康を創造することができる。
- ③ 自立した社会人として、常に自己研鑽に取り組み、自らの可能性を高めて社会に貢献することができる。

2 学科の特色

2-1 教育課程編成の基本方針

新設学科の前身は管理栄養士専攻である。この教育目標を基盤として、管理栄養士に必要な教育課程を段階的に編成する。

本学科は、専門実践活動科目として「疾病治療・重症化予防」「食育・食環境」の修得を目的に

教育課程の編成をする。

1年次・2年次・3年次は、管理栄養士として必要な専門知識と技能を修得する。3年次、4年次は、臨地実習を経験し、知識と技能の定着を図り、自分の管理栄養士としての適正と心構えを学び、運動やスポーツ、食品開発、効果的なサプリメント摂取に関して知識と技能を修得するアップグレード科目を3年次に編成している。4年次は専門性を高める卒業研究と管理栄養士国家試験合格へのプログラムを編成する。

管理栄養士の基礎科目として、1年次、2年次は生物学・生化学実験、食品学・食品学実験、調理科学、化学実験等を配置している。2年次は専門科目の応用栄養学・応用栄養学実験、栄養教育論・教育論実習、栄養管理プロセル論を配置している。3年次はさらに臨床の専門性をたかめる臨床栄養学実習、在宅栄養管理理論等と管理栄養士としての適性を明確にするキャリア教育を配置している。アップグレード科目は食物とアレルギー、健康栄養情報処理演習、健康運動実技、商品開発論を置き、管理栄養士の質を高める教育課程とする。

2-2 新学科の必要性

管理栄養士学科は、平成14年4月「栄養士法の一部改正」を受けて、「チーム医療」「健康増進・疾病予防」「食育・栄養指導」「健康をテーマにした食品の研究・開発」など活躍することによって、人々の健康を食の面から支援することのできる人材を育成し、地域社会で活躍できる管理栄養士の人材教育を行ってきた。

しかし、わが国の人口構造は、急激に少子高齢化が進んでいる。国立社会保障・人口問題研究所が 2017 年に発表した 65 歳以上人口推計値は、2017 年では 26.6%、2025 年 30.0%、2035 年 には 32.8%に達し、75 以上の後期高齢者人口は、2035 には 19.6%と全人口の 4 人に 1 人となり、超高齢化の社会となる。このような社会背景において、管理栄養士を取り巻く保健医療の環境は、医療の高度化・複雑化が進展し、さらに医療提供の場の多様化など大きく変わっている。これからの超少子高齢化社会と複雑多岐にわたるに疾病構造とそれに対応する医療の高度化・複雑化への対応として、管理栄養士のさらなる専門職の人材育成と資質の向上求められる。また、介護・医療費などの社会保障費の急増が懸念されるという問題から、日常の栄養管理より有病率の低下と要介護の減少対策は管理栄養士の役割として今以上に求められる。

したがって、超高齢化がもたらす変化を見据えて、管理栄養学科は「疾病治療と疾病の重篤化予病」に対して、最新の知識や治療方法を学ぶ科目が必要である。「疾病予防」に対して、栄養管理だけでなく、運動やスポーツを取り入れた健康づくりをサポートする人材の養成が必要である。さらに「食育・食環境」に対して、食品開発や「食育活動に貢献できる人材が必要である。

中央審議会答申「我が国の高等教育の将来像」で示された「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえ、管理栄養学科は保健医療の専門性を高め、個々の特性に対応することができる管理栄養士を「疾病治療と疾病の重篤化予病」「疾病予防」「食育・食環

境」の領域に特化し、社会が求める管理栄養士を養成するために新学科を設置する。

3 学部・学科の名称および学位の名称

学部の名称は従来通り家政学部であり(英文名称: Faculty of Home Economics)、「管理栄養学科」(英文名称: Department of Management Nutrition)とする。学位は従来通り「学士(家政学)」(英文名称: Bachelor of Home Economic)とする。

4 教育課程の編成の考え方および特色

4-1 学部の教育課程の方針

家政学部の**管理栄養学科**は、学部共通科目 24 単位以上、専門科目 84 単位以上、総計 124 単位以上取得する。こどもの生活学科は、学部共通科目 24 単位以上、専門科目 93 単位以上、総計 124 単位以上取得する。

家政学部の教育目標を達成する教育方針の下、学科の教育課程の編成を構成している。 家政学部の教育課程の方針(カリキュラムポリシー)は以下の通りである。

- 主体的・対話的で深い学びを実践する学修行動を育成する授業を実践。
- 課題を解決するために必要な知識・情報等を獲得・活用し解決する授業を実践。
- 本学の教育方針と3学科の専門性を明確にする初年次教育科目を置く。
- 複合領域の科学として総合性・独自性を理解するために、人文科学、社会科学、生活学分野 の教養分野と保健体育分野、外国語分野を基礎分野として置く。
- 実践的総合科学としての家政学の各分野を専門的に学ぶために、3 学科の専門科目を置く。
- 講義で修得した内容を実証するために、各分野に実習・実験科目を置く。
- 4 年間の学修の集大成として、必修科目として卒業論文・卒業研究を置く。
- 3学科の専門性に対応するキャリア形成を促進するために、資格関連の科目を置く。

4-2 教育課程編成の基本方針

中央審議会答申「我が国の高等教育の将来像」で示された「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえ、特色ある人材を養成するにあたり、管理栄養学科の学位授与(ディプロマポリシー)の方針は以下の通りである。

管理栄養学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、管理栄養士の資格を生かして、「食」の専門家として疾病治療・重症化予防、疾病予防、食育と食環境を整えるための高度な知識と技能を持ち、人々の日常生活を健康の面から支援することのできる人材を育成することです。正規のカリキュラムの所定の単位を修得した者には卒業を認定し、学士(家政学)の学位を授与します。学位を授与するにあたって重視する項目は以下のとおりである。

① 建学の精神、社会人基礎力、pisa 型学力を修得して、職場と地域の人々と協働して課題を解

決していくことができる。

- ② 管理栄養士に必要な疾病・疾病予防・食育に関する専門知識・技能を身に付け、豊かな食生活と健康を創造することができる。
- ③ 自立した社会人として、常に自己研鑽に取り組み、自らの可能性を高めて社会に貢献することができる。

4-3 学科の特色

管理栄養学科では、管理栄養士として栄養学を中心に、医学、解剖学、生理学、生化学、公衆衛生学などの人体に関わる分野ならびに食品学、食品加工・貯蔵学、調理科学などの食品に関わる分野の基礎知識をもとに、「食」の専門家として疾病治療、疾病予防、食育と食環境を整えるための高度な知識と技能を持ち、人々の日常生活を健康の面から支援することのできる人材を育成である。

4-4 教育課程編成の考え方

管理栄養学科の教育課程は、以下の通りである。

基礎科目と専門科目から構成される。授業形態は、講義・演習・実習の3タイプ用意して、各科目の関連性を明確化するためにカリキュラムマップを作成している。(資料①カリキュラムマップ) <共通科目>

社会的に自立して生きていく上で必要なスキル・リテラシー・教養等を学修するために、家政学部共通科目として編成している。共通科目は、「教養分野」「保健体育分野」「外国語分野」の3分野で編成している。「教養分野」では、家政学・自然科学・人文科学・社会科学に関する基礎的な知識・技能を学修する。「保健体育分野」では、講義と実技を通して身体と健康に関する基礎的知識・技能を学修する。「外国語分野」では、異文化を理解する上で必要な基礎的な知識・技能を学修する。

初年次教育として「未来へつなぐアウトリーチスタートアップ」及び「未来へつなぐアウトリーチ I」を配置している。「未来へつなぐアウトリーチ I」では、PDCA(P:計画、D:実施、C:チェック、A:修正)サイクルを活用して、家政学の核となる衣・食・住・消費活動などの生活環境の視点から地域の課題を発見し、その課題解決を目指す。

<専門科目>

専門科目は、管理栄養士の資格を生かした「疾病治療・重症化予防」、「疾病予防」、「食育・食環境の整備」等、管理栄養士の資格を生かした各分野で活躍する人材の育成を目的としたカリキュラムを編成している。また、「栄養教諭」の資格も取得可能である。

管理栄養学科の専門教育は、専門分野の基礎となるものを専門基礎分野、応用となるものを専門分野に配置し、段階的に理解できるように授業を展開する。管理栄養士学校指定規則に基づき、以下の領域に分類される科目群を配置し、学年の進行に合わせて、各領域の知識や技能を講義・実験・実習により修得し、臨地実習により実践力を身につけられるようにカリキュラムを編成する。

(1) 専門基礎分野

- ①栄養学を学修するために必要な基礎的な専門知識を修得するために、生物学入門、化学入門、 化学基礎実験、栄養英語を置く。
- ②社会的課題としての保健・医療・福祉等についての基礎知識並びに環境因子、社会的諸制度としての衛生行政・衛生法規・地域保健対策等について理解するために、公衆衛生学に関する必修科目を置く。
- ③人体の構造や機能を体系的に理解した上で、主要疾患の成因・病態・診断、治療等について理解を深めるために、解剖・生理学・生化学・臨床医学に関する必修科目とともに実験・実習科目を置く。
- ④食品の化学成分の構造・性質、物性等の基礎知識及び調理・加工による変化、栄養性・嗜好性 の高い食物を調製する技術、食品表示・安全性について学修するために、食品学・調理学・食品 衛生学に関する必修科目とともに実験・実習科目を置く。

(2) 専門分野

- ①栄養の基本的概念及びその意義並びにエネルギー、栄養素の代謝とその生理的意義を理解するために、基礎栄養学に関する必修科目とともに実験科目を置く。
- ②各ライフステージにおける栄養状態や心身機能の特徴に基づいた栄養管理の基礎を理解する ために応用栄養学に関する必修科目とともに実習科目を置く。
- ③健康・栄養状態・食行動・食環境に関する情報を収集・分析するとともに、それらの総合的評価・ 判定に基づく栄養教育プログラムを作成する能力を修得するために、栄養教育論に関する必修科 目とともに実習科目を置く。
- ④傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて栄養管理計画の作成・実施・評価に関する総合的マネジメントの考え方を理解するために、臨床栄養学に関する必修科目とともに実習科目を置く。
- ⑤地域や職域の健康・栄養問題とそれを取り巻く諸要因を分析するとともに様々な健康・栄養状態の者に対する適切な栄養関連サービスのあり方について理解を深めるために、公衆栄養学に関する必修科目とともに実習科目を置く。
- ⑥給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面・安全面・経済面全般についてマネジメントを行う能力を修得するために、給食経営管理論に関する必修科目とともに実習科目を置く。
- ⑦各専門分野に関わる知識についてさらに理解を深めるとともに、管理栄養士に必要とされる知識・技能を統合して実践活動の場での課題解決能力を修得するために、「臨床総合演習」・「臨地実習」・「卒業研究」を置く。
- ⑧管理栄養士として卒業後の進路をサポートするための科目(アップグレード分野)を置く。
- ⑨「課題解決型行動特性」及び「課題解決型学力」の修得、自己成長のためのキャリアビジョンの 方向性や目標の明確化のために、「管理栄養士への道」・「基礎キャリア教育」を置く。さらに、疾病 治療・重症化予防、疾病予防、食育・食環境の整備の3分野の実習科目を設け、これまでに学修し

た専門的知識・技能を活用して、実践活動に結びつける。

(3) 栄養に係る教育に関する科目

教育の現場で必要とする知識・技能を修得して、栄養教諭免許が取得できるカリキュラム(18科目で構成)を編成している。授業方法は、以下の3点に焦点を当てて、講義に加え事例研究・模擬授業・グループ討議・ロールプレイング等実践的な学修方法を取り入れる。

- ① 学校における食育のあり方や栄養教諭の職務内容の理解等栄養教諭に必要な食育基本法 や学校給食法等を学修する。
- ② 食育の模擬授業や肥満・やせ、食物アレルギー等栄養教諭に必要な個別指導の実践能力を育成する。
- ③小学校(中学校)の役割・組織及び栄養教諭の職務内容に関する理解を通して、栄養教諭としての使命感と責任感を育成する。

必修科目・選択科目・自由科目の構成

卒業に必要な総単位数は124単位である。

共通科目として24単位以上の取得が必要となる。この中で、潜在能力の開発、生活経済論、生活学概論、家族論、未来へつなぐアウトリーチスタートアップ、未来へつなぐアウトリーチ I (計10単位)が必修である。その他、教養分野、保健体育分野、外国語分野から14単位以上を履修する。ただし、外国語分野は、2単位を必修とする。

専門科目として84単位以上の取得が必要である。また、管理栄養士受験資格を得るためには、 専門科目として112単位以上の取得が必要である。これは、厚生労働省の定める管理栄養士養成施設として、法令に適合したカリキュラムとなっている。

履修順序(配当年次)

1~2 年次を中心に、専門分野の知識を修得する前に共通科目、外国語科目を履修し、広く社会を見ることのできる教養を修得する。さらに 1 年次に専門科目を学ぶための導入教育として、読解力、数読理解(計算含む)のリメディアル教育プログラムを設定している。1~2 年次にはこれらの一般的な教養科目と並行して、専門知識を理解するための基礎学力をつける専門基礎分野の授業を行う。これらの基礎を学んだ上で、1~3 年次にかけて、基礎栄養学、応用栄養学、臨床栄養学、公衆栄養学、栄養教育論、給食経営管理論等の専門知識や技術を修得するための科目を開講する。3~4 年次には臨地実習、臨床総合演習を通じて各専門分野の内容を総復習し、管理栄養士に必要な知識・技術の再確認をする。また 3~4 年次には、各分野の中から各自が自分の関心と適性に基づきテーマを決め専門知識を生かしながら研究・調査をまとめることができる「卒業論文」を設けている。

5 教員組織の編成の考え方および特色

5-1 教員配置の方針

本学の専任教員は、①本学建学の精神及び教育理念に相応しい人間性と、②十分な教育研究能力 を有することが求められる。

専門分野を担当する専任教員数は16人であり、大学設置基準を満たしている。専任教員を各科目区分に1人以上配置する。即ち、「社会・環境と健康」、「基礎栄養学」、「応用栄養学」、「公衆栄養学」の各分野に専任教員を1人、「栄養教育論」、「臨床栄養学」、「給食経営管理論」の各分野には2人、「食べ物と健康」、「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」各分野には3人を配置する。16人の専任教員のうち、11人が管理栄養士であり、1人が医師である。また、7人が博士の学位を、7人が修士の学位を有している。

なお、令和2年4月に設置する前年度(平成30年度)に大学設置基準における必要な人数を、 新規採用教員を含めて配置し、設置前から教育の質を担保してこれまで同様に、きめ細かな学生 指導をするための準備を整えている。

5-2 教員組織の年齢構成

学科設置(令和2年4月)の教員構成は表1に示す。教授5人、講師3人が確定している専任教員8人である。年齢構成は表2に示す。教授5人の平均年齢59.8歳、講師3人の平均年齢は43.0歳であり、全体の平均年齢は51.4歳、全体としての年齢構成は「30歳~39歳以下」1人、「「40歳~49歳以下」1人、「50歳~59歳以下」3人、「60歳~66歳以下」3人であり、50歳代を中心とした教員配置である。

なお、教員の定年は、「定年規程」(**資料②**)第3条に示すとおり満65歳である。また「定年退職後専任教員に関する内規」(**資料③**)では定年後、特に必要がある教員の場合は、70歳を上限として、65歳を超えても理事長が特に必要と認めた場合は採用することができる制度を整備している。

表1 管理栄養学科教員構成

職位	令和2年度	学部の種類に応じて	管理栄養士設置基準
月1八八.	(設置予定年度)	定める専任教員基準	自
教授	6人		
准教授	5 人	7 人	指定数 16 人
講師	4 人	(内 教授 4 人)	専門科目 10 人以上
助教	1人		专门符目 10 八丛上
計	16 人		

表2 管理栄養学科教員の年齢構成

職位	60 歳代	50 歳代	40 歳代	30 歳代	20 橙	計	平均年齢
教授	3 人	1人	2 人			6 人	55.3
准教授	1人	1人	2 人	1人		5 人	49.8
講師	1人		2 人	1人		4 人	45.3
助教					1人	1人	28.0
計	5 人	3 人	5 人	2 人	1人	16 人	44.6

5-3 研究分野•研究体制

本学科で展開する授業科目は、幅広い学問分野にわたっているが、配置する専任教員は、それぞれの専門領域の学会に所属し、精力的に活動している。また、各教員は専門とする分野について研究を行うとともに、卒業論文の指導を行う。

専任教員は、それぞれに研究室を有している。さらに、学科の研究室として、第1教員実験室、 第2教員実験室、第4教員実験室、微生物学実験室を設置する。

6 教育方法、履修指導方法および卒業要件

6-1 単位の算定基準および卒業要件

①単位の算定

単位の算定基準は、愛知学泉大学学則(**第19条**)に定める。授業科目の単位数は、以下の通りである。

講義科目は、15時間の授業をもって1単位とする。

演習科目は、30時間の授業をもって1単位とする。

実験・実習および実技科目については、45時間の授業をもって1単位とする。

② 卒業要件

共通科目24単位(うち必修科目10単位、外国語分野選択必修2単位以上)、専門科目84単位(必修科目)を修得、総計124単位以上修得することである。

管理栄養士受験資格は、基礎科目24単位(うち必修科目10単位,外国語分野選択必修2単位) 以上、専門科目112単位(うち必修科目84単位,選択科目28単位)以上修得することである。

本学科は、管理栄養士の資格を生かした「疾病治療・重症化予防」、「疾病予防」、「食育・食環境の整備」の3分野で活躍する人材の育成を目的としたカリキュラムを編成していることから、別表の履修モデルを提示する。併せて「栄養教諭」の資格取得に関わる履修モデルを提示する(資料

4)

なお、年次に応じて段階的に無理なく単位修得できるように、各年次において履修登録できる 卒業要件科目の単位数の上限を48単位(集中講義、学外実習を除く)としている。

③ 教育方法および授業の方法

管理栄養学科における授業方法は、知識の理解を目的とする教育内容については原則として 講義形式の授業形態をとる。必要に応じて少人数グループ学修、学生の参加型学修等双方向の 学修を展開する。学生の主体的能動的な深い学びによる知識や技能の定着を目的とする教育内 容については演習形式の授業形態をとる。また、技術技能の修得を目的とする教育内容について は、実験・実習形式の授業形態をとる。

④ 学生数の設定

教育目的を効果的かつ確実に達成するために、授業科目ごとの授業形態に則して、講義形式、 実験・実習・演習形式において設置基準の40人としている。

⑤ 配当年次

年次進行に伴い、基礎知識を得るに必要な科目から専門知識を修得させる科目へと、体系的な学習が可能となるよう授業科目を配置する。また、管理栄養学科の専門知識を深めるに必要な科目が履修できるように1年次と2年次を中心に配置する。

⑥履修科目の登録上限

段階的に学修効果を高めるために、年間の履修単位の上限を48単位とする。

⑦厳格な成績評価

卒業時の学生の質を担保する観点から予め学生に対し、授業における学修目標やその目標を 到達度するための授業の方法、計画等を明示する。また、社会人基礎力(学修態度)は、学部で統 一されたルーブリックによる成績評価基準に基づき厳格な評価をする。さらに、成績評価にあたっ ては、各授業科目において、授業時間数の3分の1を超えた学生には、単位を与えないことを規程 (学則第5章21条)に表記し、出欠席の管理も厳格に行っている。

⑧シラバスの作成

学生の4年間の履修計画を支援するために、全ての授業科目についてシラバスを作成し、科目の概要、学修内容、到達目標、社会人基礎力、成績評価の方法(筆記試験、小テスト、レポート、成果発表、作品、社会人基礎力(学修態度)および評価の観点、到達目標の基準、週ごとに学修内容、授業実施方法、到達レベル C 基準、予習・復習とその時間、授業で活用する社会人基礎力を分かり易く記載し、学生の学修に役立てる。

⑨担任制の導入

学生の履修状況、学修状況、学生生活に関わる相談に応じ、学生の状況に合わせた個別指導体制を整えている。また、本学の特色である社会人基礎力の育成についても担任による支援体制を整えている。

⑩履修指導方法

食の専門家として疾病治療、疾病予防、食育と食環境に関わる高度な知識と技能を持ち、人々

の日常生活を健康の面から支援することのできる管理栄養士を育成するカリキュラムに加え「栄養教諭」「健康運動実践指導者」「NR、サプリメントアドバイザー」「商品プラナー」「食品衛生監視員任用」「食品衛生管理者任用」の免許・資格取得のための必要な科目も含まれ編成されている。資格の取得は最終目的ではないが、学生のキャリア教育の一つとして、資格も視野にいれて学ぶように指導する(資料⑥履修モデル)。

履修モデルは「疾病治療・重症化予防」「疾病予防」「食育・食環境」「栄養教諭」の4つ履修モデルから構成されている。

履修モデル⑥-1 は「疾病治療・重症化予防」の分野では、疾病に対する正確な基礎知識を修得した後、治療方法を臨床検査から評価する方法や栄養補給法を最新の医療現場が栄養管理に求める専門知識と技能が修得できる。

履修モデル⑥-2 は「疾病予防」の分野では、生活習慣病予防をはじめとする幼少期における栄養補給など疾病予防の知識を踏まえた栄養と運動の両面から、現代社会が求める健康づくりのサポートの専門知識と技能が修得できる。

履修モデル⑥-3 は「食育・食環境」の分野では、食品の特性と栄養成分など基礎知識を修得し、 地域社会が抱える健康問題や食文化の問題を解決する専門知識と技能が修得できる。

履修モデル⑥-4 は「栄養教諭」の分野は、栄養教諭に求められる教職の知識と技能が修得できる。

⑪学位論文の作成に関連する研究活動

卒業論文については、4年間の集大成として位置づけていることから必修科目としている。これ に必要な調査研究、実験研究、文献研究および事例研究の成果と時間を考慮し、大学設置基準 第21条の規程に合わせて、通年4単位を必修科目として付与する。

⑫CAP制

管理栄養学科は、1年間の登録上限(CAP制)単位数を48単位とする。理由としては、本学では、1単位と認める時間数は、設置基準では45時間(授業15時間+事前・事後学修30時間)の学修が必要である。1年間で48単位の場合、1440時間(48単位×30時間)の予復習時間の確保が必要となる。これを1日の予復習の時間に換算すると約300分(1440時間×45分÷30週÷7日)となり、学生の十分な学修時間が確保でき、実施可能な予復習時間としては妥当と判断する。

(13)他大学における授業科目の履修について

大学間の交流を促進し単位互換協定を締結した大学に所属する学部学生が、所属する大学以外の協定大学の授業科目を履修し、修得した単位をその学生の所属する大学の単位として認定する制度を設けている(学則第24条)。また、本学学生以外の者で、本学の授業を受講しようとする者に科目等履修生として授業科目を受講させ単位を与えることができる(学則第54条)。さらに、入学前に大学(短期大学)において履修した授業科目について入学後、本学の授業科目の履修により修得したものとする単位互換ができる。

7 施設・設備等の整備計画

7-1 校地等の整備計画

この度の設置計画は、既設の家政学科家政学専攻、管理栄養士専攻、こどもの生活専攻をライフスタイル学科、管理栄養学科、こどもの生活学科に改組する計画である。入学定員 190 人、収容定員 760 人は既設の家政学科と同じであり、教育課程も大きな変更はない。現有の校地等は基準を十分充足し、大学教育に相応しい環境を有しており、新たな整備は計画していない。

8 入学選抜の概要

8-1 受け入れの方針

本学が養成する人材像や各学科で学べるカリキュラム等は大学要覧・ホームページ等に示し、請求のあった高校や生徒・保護者へ広く告知することとしている。また、受験生に配布する学生募集要項には入学生の受け入れの方針(アドミッションポリシー)・建学の精神・教育目標等を掲げ、この方針に基づき多様な選抜方式を実施する。入学受け入れの方針は、以下の通りである。

・管理栄養学科のアドミッションポリシー(学生受け入れの方針)

管理栄養学科では、栄養学に強い関心を抱き、「疾病治療・重症化予防」・「疾病予防」・「食育・食環境」などの分野で管理栄養士として社会に貢献したいという意欲を持った人を求める。 そこで、次に掲げるような人を積極的に受け入れる。

(A)学力の3要素について

(A-1) 基礎的・基本的な知識・技能について

化学、生物、国語、数学、英語に関する高等学校卒業レベルの基礎学力を身につけている。 (A-2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等について 食を取り巻く課題を積極的に発見し、自分の考えをまとめることができる。

自分の考えを他者にわかりやすく説明できる能力を持っている。

(A-3)主体的に学習に取り組む意欲・関心・態度について

管理栄養士として活躍し、将来的にはその指導的な役割を担う意欲を持っている。

疾病と栄養との因果関係に関心を持ち、その解明に努力をすることができる。

食を取り巻く問題を積極的に考察し、自分の考えをまとめることができる。

(B)行動特性について

何事に対しても積極的に取り組み、継続して努力することができる。

様々な課題の解決に向けて深く考察し、複数のアイデアを提案できる。

内容を整理しながら聞き、わからないことは進んで質問をすることができる。

社会のルールに則り、自らの言動を適切に律することができる。

(C)評価について

知識・技能については、記述式の筆記試験および調査書で確認する。 思考力・判断力・表現力については、記述式の筆記試験および面接で確認する。 体的に学習に取り組む態度については、面接および調査書で確認する。 動特性については、面接および調査書で確認する。

8-2 選抜方法

管理栄養学科80人を募集する。専門分野の知識・技術を修得していくために必要な基礎学力のある学生を推薦入試、一般入試、センター試験利用入試、特別入試により選抜する。特に、管理栄養学科で学ぶためには、理科の基礎知識をもつことが重要であるため、同学科の入試選抜では理科を含むものとする。

指定校推薦入試は、本学への進学実績のある高校に対し、評定平均値の指定を行い、各高校 長の推薦を受けた受験生について、面接・調査書により合格者を決定する。

推薦入試は、2回(前期・後期)実施する。いずれも基礎学力テスト(管理栄養学科は生物または化学)を必須とし、このほかに面接・調査書(評定平均値と資格・検定・課外活動等)を加味して総合的に判定する。

一般入試は2回(前期・後期)実施する。A方式(3科目型)・B方式(2科目型)から受験生が選択できる方式を採用し、A方式を選択した受験生はB方式も自動的に判定できるシステムとしている。科目は国語・英語・日本史・数学・生物・化学から3科目または2科目を選択する。

センター試験利用入試は2回(前期・後期)実施する。管理栄養学科は、国語・英語・数学より高 得点1科目、化学・生物より高得点1科目の2科目(200点満点)で判定する。

AO入試は管理栄養学科が1回実施する。AO入試では、学科理解のためオープンキャンパスへの参加を義務づけている。エントリー後、理栄養学科は模擬授業のレポートと面談を実施し、面談で適格と認められた受験生のみが出願できるシステムを採用している。出願後、面談結果と調査書により判定する。

その他、特別入試として社会人入試、外国人留学生入試、3年次編入学入試(全身の専攻として 実施)があり、広く門戸を開いている。いずれも小論文と面接により判定する。なお、社会人入試は 「4年以上の社会的経験を有する者」を出願条件に定めている。

9 取得可能な資格

本学科で取得可能な資格は以下のとおりである。

本学科は管理栄養士養成施設であるので、卒業に必要な科目を修得すれば栄養士免許を取得できる。卒業年次に実施される管理栄養士国家試験を目指して、3、4年次に「管理栄養士特論A」、「管理栄養士特論B」、「管理栄養士特論C」を開講し、専門的知識の理解及び知識の定着を行い、総括的な学修を行う。

本学科で取得可能な資格は以下のとおりである。

- ①管理栄養士国家試験受験資格
- ②栄養士免許
- ③栄養教諭一種免許状

卒業要件に加え、栄養に係る教育に関する科目33単位、共通科目8単位を修得することで得られる。

- ④食品衛生監視員任用資格
- ⑤食品衛生管理者任用資格
- ⑥健康運動実践指導者認定試験受験資格

卒業要件に加え、専門基礎分野「運動生理学」2単位、専門分野「基礎栄養学」2単位、アップグレード分野「健康運動学」「健康運動演習」、「健康運動実技 A(ウェイトトレーニング)」、「健康運動実技 B(ウォーキングとジョギング)」、「健康運動実技 C(エアロビックダンス)」、「健康運動実技 D(水泳・水中運動)」7単位の計11単位を修得することで、認定試験の受験資格を得られる。 ⑦商品プランナー認定試験受験資格

卒業要件に加え、アップグレード分野「商品開発論」2単位を修得することで、認定試験の受験 資格を得られる。

10 実習の具体的計画

ア 実習の目的

実践活動の場での課題発見、解決を通じて、栄養評価、判定に基づく適切なマネジメントを行う ために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき知識及び技 能を習得させる。

イ 実習先の確保の状況

イ 実習先の確保の状況

管理栄養学科では、厚生労働省の規定に基づき「臨地実習A(給食基礎)」、「臨地実習B(公衆栄養・給食応用)」、「臨地実習C(臨床)」を臨地実習として設置する。同時に、演習科目として「栄養実習事前・事後演習」を設け、事前事後指導を行いつつ、それぞれの実習を有機的に統合する。

- ①「臨地実習A(給食基礎)」では、特定給食施設の特質、組織形態、運営方法、給食の目的等を 把握し、給食業務の基本的な流れを理解し、給食の運営、対象者の身体機能に応じた栄養・食事 管理、安全・衛生管理、食卓環境サービスなどの基本的業務を学ぶ。実習施設として、学校給食 センター・事業所・福祉施設を確保している。
- ②「臨地実習B(公衆栄養・給食応用)」では、公衆栄養学領域の実践の場である行政機関において、管理栄養士に必要な栄養管理業務、または管理栄養士に必要な栄養管理、栄養食事指導を含む給食経営管理業務を学ぶ。実習施設として、保健所等、学校給食センター・事業所・福祉施設を確保している。各施設先における事業内容を基にした実習プログラムが実施される。
- ③「臨地実習 C(臨床)」では、臨床栄養の実践の場である医療関連施設において、管理栄養士に 必要な栄養管理業務を学ぶ。実習施設として、病院(一般病院、地域医療支援病院、特定機能病 院)介護老人保健施設を確保している。各施設先における事業内容を基にした実習プログラムが

実施される。

実習施設名、所在地を記載した実習施設一覧は、資料⑤で示す。

ウ 実習先との契約内容

実習の依頼文書は、施設長等にし、受入れの可否決定後は、契約文書を作成し、施設側と養成施設双方で保管する。

実習中における事故防止・事故対応及び個人情報保護の取扱いについては、各実習の事前指導及び直前指導の中で徹底するとともに、万が一事故または個人情報の漏洩が発生した場合には、臨地実習委員会を開催し、速やかに必要な対応を取る。

エ 実習水準の確保の方策

各実習施設には、事前にカリキュラム内容の文書を送付し、相互に確認している。

「栄養実習事前・事後演習」では、管理栄養士として身につけるべき専門的知識及び技術の統合を図り、必要な基礎知識・技術を効果的に修得できるようまとめを行う。具体的には、各実習の意義と目的・目標を明確にし、実習に対する心構え、留意点の確認、記録の書き方についての講義、演習(課題)及びディスカッション等を行い、個々の学生が目標を達成できるように指導する。守秘義務の遵守、挨拶、敬語、服装などの社会的マナーを修得し、事前課題や実習中の研究課題などを積極的に実行できるよう、目的意識が必要なことを学ぶ。実習施設の特徴を考慮し、施設内における管理栄養士の使命や役割について課題を発見できるようにする。実習終了後は、全体でのディスカッションや報告会及び個別面談による事後指導を実施し、個々の実習体験を振り返り、学生間で学びを共有できるようにするとともに、個々の学生の課題を当該学生と担当教員との間で共有し、次の実習や大学での学びの目標を明確にする。

オ 実習先との連携体制

学生は実習前に各実習施設を訪問し、スタッフから施設において取り組む課題等について指導を受ける体制である。学科教員は実習中に各施設を訪問して実習計画や学生の実習への取り組み等について確認を行い、より効果的な実習の実現に努めている。

大学教務課、実習担当教員を緊急連絡先として連絡体制を確保する。

麻疹、風疹やインフルエンザ等については予防接種を受けているか、B型肝炎ウィルスに対する 抗体を有しているかなどの調査・検査を行う。

学生全員が入学時に傷害保険に加入している。

カ 実習前の準備状況(感染予防対策・保険等の加入状況)

実習にあたり各施設に必要とする資料(健康診断書、細菌検査結果表、麻疹、風疹など)を提出する。

麻疹、風疹やインフルエンザ等については予防接種を受けているか、B型肝炎ウィルスに対する

抗体を有しているかなどの調査・検査を行う。

学生全員が入学時に傷害保険に加入している。

キ 事前・事後における指導計画

実習における教育効果を上げるため、講義、学内実習との順序性を考慮したカリキュラム構成と し、学内で学んだ理論や技術を、各実習において活用できるよう実習を配置する。また、大学内の 実習室を開放し、学生が自己学習を行いやすい環境を整え、実習前の技術向上を図る。

事前指導としては、実習の意義と目的、特定給食施設の概要の説明や実習先からの課題に対する事前学習を通して、臨地実習の学習目標を理解させる。事後指導として、各実習ノート・課題レポートの点検、実習先の評価に基づいた指導及び全学生に課す事後報告会を行う。

ク 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

巡回指導計画については、全ての実習に担当訪問教員を配置し、事前に日程を調整して実習期間に実習施設を訪問する。実習期間中には全施設への巡回訪問を行い、施設側の意見・要望を聞き取り、必要に応じて学生の個別指導を行う。また全実習生と大学教務課、実習担当教員においては電話で即座に連絡できる体制を整えて、実習期間中の様々な不測の事態に即応できる体制を整える。

ケ 実習施設における指導者の配置計画

事前の打ち合わせ及び実習期間中の指導、実習ノートや課題レポートの評価などを、施設側の 臨地実習指導責任者との綿密な連携のもとに依頼する。

コ 成績評価体制及び単位認定方法

本学の成績評価方法に基づいて単位認定をする。

実習ノート、事後報告書の記録による評価(60%)、成果発表(30%)、社会人基礎力(学修態度) (10%)

11 管理運営

大学の管理運営に関する意思決定組織は、運営委員会、教授会、学部会議、教務委員会、学 生委員会、就職委員会をはじめとする各種委員会を整備している。

本学の管理運営に関する意思決定組織及び権限と責任については、「学校法人安城学園管理規程」で明確に定めている。教授会、運営委員会、教務委員会、学生委員会、就職委員会等の職務と権限と責任については規程に明確に定めている。

学長は、「校務を掌り、所属職員を総督する。」と定め、本学の統括・運営にあたる学長の権限と責任が明確に定めている。また、学部長の権限と責任は同規程第6条に「学部長は、所属学部の教育研究部門を指導監督する。」と定め、学部の運営については学長の指示により学部長に委任す

る体制ができている。

学長は部長、事務局長、事務長の理解と協力の下に教学面における管理運営体制が出来ている。 さらに、併設短期大学(愛知学泉短期大学)との調整が必要な案件に関しては、大学・短期大学管 理運営者会議を設置し、大学・短期大学レベルの情報共有、意思統一を図っている。

1. 教授会

教授会は2学部の教授のみで開催し、議題は、学長が決定を行うに当たり、教育研究の専門的な 観点から意見を述べる事となっており、議題は学生の入学、卒業及び課程の修了、学位の授与、 その他、教育研究上の重要事項であり年5回開催している。

2. 学部会議

学部会議は、学部構成員全員(学長、副学長、教授、准教授、専任講師、事務長)が出席し、毎月1回開催し。議題は学長が決定を行うに当たり、教育研究の専門的な観点

3. 関連委員会

① 運営委員会

運営委員会は大学の目的を組織的に執行する上で必要な教育研究に関するマネジメントをする目的で設置しており、主な議題は大学の事業計画を執行する上で必要な教育研究に関する事項、学長の諮問事項、理事長の諮問事項を毎月1回開催し審議している。

② 各種委員会

各種委員会は教務委員会、カリキュラム委員会、FD 委員会、自己点検評価委員会、学生委員会、就職委員会、入試委員会、国際交流委員会、図書委員、情報教育委員会、ハラスメント委員会、人と動物に関する実験倫理委員会、まちづくり委員会、地域連携ボランティア委員会、大学3つのポリシー策定委員会があり、毎月1回会議を開催し、規程に基づく決定事項、検討事項、事業進捗の確認等実施している。各委員会の責任者は運営委員会に出席し、各委員会の検討事項や進捗状況について報告をし、また、運営委員会の決定事項の内、各委員会担当する事項について事業を推進する実務組織として働いている。

また、学科運営委員会、専攻運営委員会があり、毎月1回、それぞれの事業推進と点検を行っている(資料⑨)。

12 自己点検・評価

自己点検 : 評価

本学は教育研究の向上のため、愛知学泉大学自己点検評価委員会を組織し、大学運営の全般の点検評価を行い、「愛知学泉大学自己点検報告書」にまとめている。

大学の自己点検の実施方法は、各担当分掌等から、毎年度の事業計画に基づく活動を9月の中間事業報告、3月に業報告書として提出される。愛知学泉大学自己点検・自己評価委員会は大学・短期大学管理運営者会議、運営委員会と協働し、中間事業報告書、事業報告書を基に実施状況、到達度、問題点などを点検評価し、改善が必要な点は、フィードバックしPDCAサイクルを回

し改善を図っている。

自己点検評価委員会のメンバーは、学長、副学長、各学部の学部長、各学部の教務委員長、各学部の学生委員長、事務長であり、全学的な視野に立ち自己点検評価を行える体制を担保している。また、自己点検評価委員会は、事業計画書により各学部・各種委員会の課題と到達目標を把握し、運営委員会、教授会、学部会議を通じ、活動状況の報告を受け情報を共有している。学部、各種委員会等の担当部署において、日常的な点検・評価活動を行い、全教職員が自己点検・評価活動に参画し推進している。

自己点検評価委員会では、毎年度の事業報告書を基に、機関別認証評価機関「日本高等教育評価機構」が定める評価項目に沿って点検・評価結果について、毎年、愛知学泉大学自己点検評価報告書としてまとめている。自己点検・評価報告書は、学内の図書館、関係部署に置き、学外に対しては、大学ホームページ上で公表し、周知に努めている。

現状の把握のために必要な調査やデータ及び資料を十分に収集し、活動状況を分析している。 収集したデータは事務局、教務課、学生課、就職課等の関係部署で保管するだけでなく、IR 室を 設置し、一元的なデータの作成・収集・分析を進め、大学改善、大学運営に反映させている。

本学は、日本高等教育評価機構による認証評価を受審している。平成22年度、平成29年度の 2回受審し、日本高等教育評価機構が定める評価基準すべてにおいて、適合している認定書を受 領している。また、複数の評価基準においては、優れた点取り組みとして機構から公表されてい る。

13 情報の公表

本学の目的は「建学の精神」の実践を通して、創立者が目指した経済的、政治的・文化的に自立できる社会人を育成する事によって、地域と国際社会に貢献することである。」である。

本学は、法令を遵守し、社会倫理、社会規範に則った法人運営・大学運営を行い、法人内の諸活動のみならず、学外の関係者、関係組織、関係機関に対する諸活動においても構成と誠実につとめ、社会から継続的な信頼が得られるよう取り組んでいる。

情報公開については、「適切な情報管理」の基、積極的な情報公開を通じて説明責任を果たし、 教育研究の成果の普及及び活用に資するため、下記に示すように、教育研究活動状況の公表を 積極的に行っている。

ア 大学の教育研究上の目的に関する事

愛知学泉大学学則に建学の精神、大学の教育目標、学部学科の教育目標を明示し、HP で公表しています。

大学の教育目標

http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/kyouikumokuhyou.pdf 学部・学科・専攻の教育目標 http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/idea.html

三つのポリシー

家政学部アドミッションポリシー

http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/admi_policy.pdf

家政学部カリキュラムポリシー

http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/curri_policy_kasei.pdf

家政学部ディプロマポリシー

http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/diplo_policy_kasei.pdf(

現代マネジメント学部カリキュラムポリシー

http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/curri_policy_manage.pdf

現代マネジメント学部ディプロマポリシー

http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/diplo_policy_manage.pdf

イ 教育研究上の目的に関する事

(1)大学学則第9条

http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/kyouikumokuhyou.pdf

ウ 教員組織、教員数、並びに各教員が有する学位及び業績 本学の研究の組織図 次で公表

http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/kyouinsuu.pdf

(2)教員の学位・業績 次に公表

家政学専攻 http://www.gakusen.ac.jp/u/faculty/lifestyle02/teacher.html

管理栄養士専攻 http://www.gakusen.ac.jp/u/faculty/lifestyle01/teacher.html

こどもの生活専攻 http://www.gakusen.ac.jp/u/faculty/lifestyle03/teacher.html

現代マネジメント学部 http://www.gakusen.ac.jp/u/faculty/management/teacher.html

エ 入学者受け入れ方針入学者の数

(1)入学者受け入れ方針

家政学部 http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/admi_policy.pdf
現代マネジメント学部 募集停止

(2) 収容定員

在学学生数 http://www.gakusen.ac.jp/u/exam/index.html

卒業又は修了者の数進学者及び、就職者数、

http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/admi_number.pdf

http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/grad_number.pdf

その他の就職情報

家政学部 http://www.gakusen.ac.jp/u/career/okazaki.html
現代マネジメント学部 http://www.gakusen.ac.jp/u/career/index.html

オ 授業科目、授業の方法、および内容並びに年間の授業計画に関する事履修の手引き及びシラバスについて次で公表

カリキュラムポリシー

家政学部 <u>http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/curri_policy_kasei.pdf</u> 現代マネジメン学部 <u>http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/curri_policy_manage.pdf</u> 履修の手引き

家政学部 家政学専攻

http://www.gakusen.ac.jp/u/faculty/lifestyle02/sirabasu/kaseiguide2019.pdf 家政学部 管理栄養士専攻

http://www.gakusen.ac.jp/u/faculty/lifestyle01/sirabasu/kaneiguide2019.pdf 家政学部 こどもの生活専攻

http://www.gakusen.ac.jp/u/faculty/lifestyle03/sirabasu/koseiguide2019.pdf 現代マネジメント学部

http://www.gakusen.ac.jp/u/faculty/management/sirabasu/guide2019.pdf

シラバス

家政学専攻 http://www.gakusen.ac.jp/u/faculty/lifestyle02/curriculum.html
管理栄養士専攻 http://www.gakusen.ac.jp/u/faculty/lifestyle03/curriculum.html
現代マネジメント http://www.gakusen.ac.jp/u/faculty/management/curriculum.html

カ 学修の成果にかかる評価及び卒業認定に当たっての基準に関する事、 履修の手引きに認定等の基準を明記し次の URIで公表している。 試験・成績基準

家政学部 http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/hyouka_manage.pdf
現代マネジメント学部 http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/hyouka_manage.pdf

キ 校地・校舎等の施設及びその他学生の教育研究環境に関する事本学の校地・校舎・施設概要について次の URL で公表している。

キャンパス所在地 http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/access.html

岡崎キャンパス施設 http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/institution_o.html
豊田キャンパス施設 http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/institution_t.html

ク 授業料、入学金その他大学が徴収する費用に関する事 学費・その他の経費に関する情報

http://www.gakusen.ac.jp/u/exam/tuition.html

ケ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等にかかる支援に関する修学・進路選択・健康等の支援についてはキャンパウライフに記載し次の URL で公表している。

修学について

家政学部 http://www.gakusen.ac.jp/u/images/student/office_kasei30z.pdf 現代マネジメント学部

http://www.gakusen.ac.jp/u/images/student/office_genma30a.pdf

進路についての支援

家政学部 http://www.gakusen.ac.jp/u/career/okazaki.html

現代マネジメント学部 http://www.gakusen.ac.jp/u/career/index.html

健康等の支援

家政学部 http://www.gakusen.ac.jp/u/student/o_index.html

現代マネジメント学部 http://www.gakusen.ac.jp/u/student/t index.html

コ その他

- (1)教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報は履修の手引きに記載し 次の URL で公表している。
- (1)学生が修得すべき知識及び能力に関す情報

http://www.gakusen.ac.jp/u/faculty/management/sirabasu/guide2019.pdf

学則等各種規程については次の URL で公表、

学則 http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/kyouikumokuhyou.pdf

自己点検評価報告書

http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/report2015.pdf

(4)認証評価結果に関する情報

http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/hyouka_houkoku01.pdf

14 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

1. FD 委員会

本学の人材を育成する教育目標を実現するために必要な教育の教育力を向上させる研修および教育に関する研究活動を全学的・組織的に推進することを目的に FD 委員会を設置している。 FD 委員会の組織は、学長を中心に取り組んでおり、規程で定めた教職員で構成されている。 FD 活動の具体的な内容は次にあげる項目を実施している。

① シラバス内容の確認

科目担当教員が作成した次年度のシラバス内容を、教育目標を達成するために適切な授業計画の立案、授業方法、成績評価法などがされているか確認する。改善が必要な場合は、科目担当教員は修正を行い、より適正なシラバスを学生に配付している。

② 学生による授業評価アンケート

学生による授業評価アンケートは、授業改善の一貫として前期・後期、全科目を対象に実施している。アンケート項目は、科目担当者の授業展、シラバスの活用、授業外(予習・復習)、学生の学修態度について実施している。科目担当教員は、集計結果を元に授業改善のリフレクションペーパーを作成する。全科目の授業評価結果と教員が作成したリフレクションペーパーは、冊子にまとめ教務課、図書館で公開している。

③ 専任教員による公開授業

教員間での教育能力向上及び教育改善に関する認識の共有化を図ることを目的に、毎年、前後期でテーマを決め、全教員が参加する公開授業を実施している。昨年度は前・後期ともに「社会人基礎力(学修態度)を評価すする教授法を学ぶ」を目的に授業参観を実施した。参観の観点「①発揮の対象とする能力要素、②発揮させる方法、③評価の方法、④学生を支援する方法」について、自己の担当科目へ取り入れる参考部分をまとめ報告している。

④ FD 研修会

家政学部は、毎年前期・後期に2回研修会を開催している。

社会人基礎力(学修態度)の評価方法に関する研修会

本学は教育目標である社会人基礎力の育成を授業内で育成することを目的に、社会人基礎力 (学修態度)を成績評価として導入している。教員の授業改善への取り組みとして「学修行動特性 評価シートを使った社会人基礎力(学修行動)の評価法」について、授業の実践例(栄養教育論) を紹介し評価法を学部全体で共有化する取り組みを行っている。

(5) ティーチング・ポートフォリオに関する研修

本学の教育の質の向上と自らの教育活動の自己省察、そのためのエビデンス、優れた授業、熱心な指導の共有化を図るための T・P の導入を目的に研修会を実施した。テーマは「教育改善のための『ティーチング・ポートフォリオ (T・P) の必要性、教育効果および構成要素』等について学び、T・P の導入を目指す」をテーマに実施している。

15 社会的・職業的自立に関する指導および体制

ア 教育課程内の取り組み

「課題解決型行動特性」及び「課題解決型学力」の修得、自己成長のためのキャリアビジョンの方向性や目標の明確化のために、「管理栄養士への道」・「基礎キャリア教育」を配置する。

「管理栄養士への道」では、管理栄養士の職業に対する理解を深め、管理栄養士の行動特性を理解し、自己のビジョンを達成する生涯学習計画を立てる授業を行う。

「基礎キャリア教育」では、各分野で活躍する専門家からの講話を聴く中で、自分の能力を社会 貢献につなげていくための能力の適格性、開発方法、心構えなどを学び、望ましい管理栄養士の 専門的行動能力(コンピテンシー)を学修し、就職につながる意識を高める。

さらに、専門実践実習(疾病治療・重症化予防)、専門実践実習(疾病予防)、専門実践実習(食育・食環境)の3分野の実習科目を設け、これまでに学修した専門的知識・技能を活用して、実践活動に結びつける。

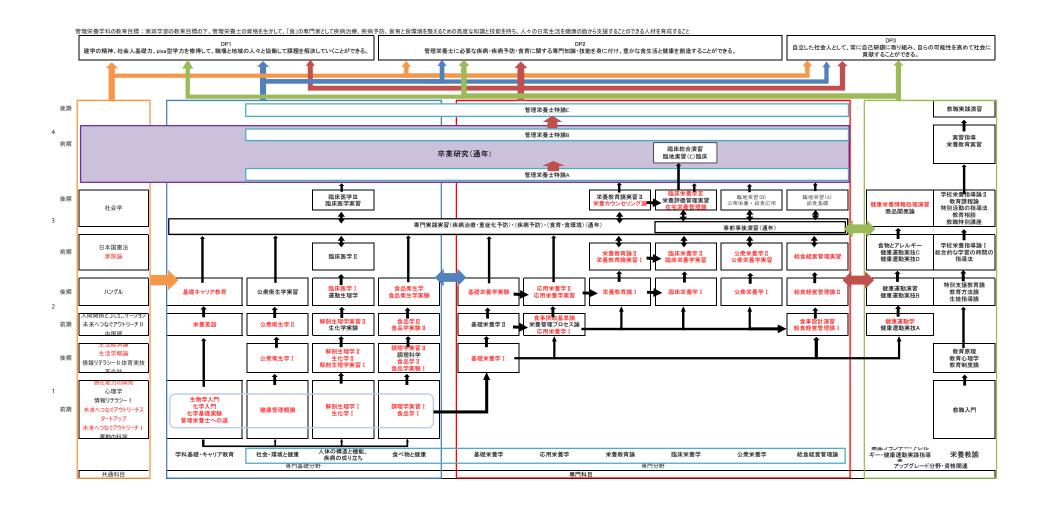
イ 教育課程外の取り組み 特になし。

ウ 適切な体制の整備

学生の社会的・職業的自立への支援は、就職指導委員会を中心として、教務委員会、学科長および専任教員により体制を整えている。また、就職指導委員には各学科より教員を1人選出し、学生の進路支援をしている。

教育課程内の取り組みとして、初年次より学科のキャリア教育の基礎となるライフスタイル学を修得することにより、キャリア意識を高め専門職への科目選択ができるようにカリキュラム構成をしている。

教育課程外の支援体制は、就職指導課より企業展、就職情報の提供、就職ガイダンスの実施、 キャリアカウンセリング、資格試験などを実施している。就職指導課の人員は、3人(専任職人2人と 非常勤1人)できめ細かいキャリア支援、専門職への支援を実施している。



定年規程(大学・短期大学)

(目的)

第 1 条 この規程は、愛知学泉大学及び愛知学泉短期大学の専任職員の定年及び定年退職 に関する事項を定めるものとする。

(専任の職員)

- 第 2 条 専任の職員とは、愛知学泉大学又は愛知学泉短期大学に本務として常時勤務する職員のことをいう。
- 2 「大学の教員等の任期に関する法律」に基づいて採用された任期制教員は専任職員で ある。

(定年)

- 第3条 専任の職員の定年は、次の通りとする。
 - (1) 教育職員 満 65 才
 - (2) 事務職員 満 60 才
- 2 特に必要がある場合、定年を延長することができる。
- 3 助手及び研究補助員は事務職員に含める。

(定年退職の日)

第4条 職員は定年に達した日の属する年度末に退職する。

(定年後再雇用)

第 5 条 専任の職員が定年に達したとき、特に必要がある場合、定年後専任職員あるいは 非常勤職員として再雇用することができる。

(定年後の給与・退職手当)

- 第6条 第5条に該当する者の給与、退職手当は、次の通りとする。
 - 1. 引きつづき勤務させる者の場合
 - (1) 給与はその者が定年に達した当時の給与額を最高として新たに決定する。
 - (2) 退職手当はその者が退職する際に支給する。
 - (3) この場合の勤務期間は在職年数に加算する。
 - 2. 退職後再雇用する者の場合
 - (1) 給与は新たに決定する。
 - (2) 退職手当は定年退職の際に支給する。

(定年退職者への特別の待遇)

第7条 学園を定年で退職した者には、次の待遇が与えられる。

定年退職時に、本人の子が本学園の設置する学校に在学しており、授業料等の減免に 関する待遇を受けているときは、当該学校在学の間そのまま継続される。

2 第1項における「在学中」とは、園児の場合、最大3年間、高校生の場合、最大3年間、短大生の場合、最大2年間、大学生の場合、最大4年間とする。

(定年退職の手続き)

第8条 各設置校の長は、毎年度7月30日までに当該年度の定年退職予定者を理事長に提出する。

2 法人事務局長は、定年退職予定者に対し、その者の退職日の30日前までに退職に関する一件書類を送付する。

(適用除外)

第9条 理事長が特に指定した職にある職員については、定年に関する規程を適用しない。

附 則(施行期日)

- 1 この規程は昭和58年4月1日から施行する。
- 2 この規程は平成3年3月28日から改正施行する。
- 3 この規程は平成11年10月29日から改正施行する。(第3条定年年令変更)
- 4 この規程は平成26年4月1日から改正施行する。
- 5 この規程は平成30年4月1日から改正施行する。

定年退職後専任教員に関する内規(愛知学泉大学)

(目的)

第1条 この内規は「定年規程(大学・短期大学)」第5条により学校法人安城学園の経営する大学を定年退職した専任教員を定年退職後専任教員として採用する場合に必要な事項を定めることを目的とする。

(特任教員)

- 第2条 理事長が特に必要と認めた場合、大学を定年退職した専任教員の中から専任教員 (以下、「特任教員」と称する。)を再雇用することが出来るものとする。
- 2 この特任教員は設置基準上の専任職員である。

(年令制限)

第3条 特任教員として勤務出来る年齢の上限は満70才とする。

(勤務)

- 第4条 特任教員は専任教員の職務を行うものとする。
- 2 業務内容は雇用契約で定めるものとする。

(給与等)

- 第5条 特任教員については、その者が退職した時点の本俸と校務手当の合計額の6割以上の給与を毎月支給する。
- 2 手当については通勤手当を支給する。
- 3 給与として支給するのは第1項と第2項に掲げたもののみである。 (契約期間)
- 第6条 契約期間は1年間を原則とする。

附則

- 1 この内規は平成26年4月1日から施行する。
- 2 この内規の施行により「愛知学泉大学・愛知学泉短期大学教育職員の定年の特例適用 者に対する内規」は廃止する。

管理栄養学科履修モデル①

管理栄養士(疾病治療・重症化予防)として必要な能力・知識の習得を目的とした履修モデル

	区 分		1年次	_	年次		3年次		F次	╝
	区 刀	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
		潜在能力の開発	2 生活経済論	2 人間関係とコミュニケーション 2	:	日本国憲法	2 社会学	2		ī
		心理学	2 生活学概論	2		家族論	2			
t	教養分野	情報リテラシー I	1 情報リテラシー Ⅱ	1						
e ke		未来へつなぐアクトリーテスタートアップ	1		•					
1		未来へつなぐアウトリーチ I	1	未来へつなぐアウトリーチⅡ]						
1	保健体育分野		2 体育実技	1	1		<u> </u>			-
	外国語分野				ハングル 1		+		 	-
	その他	グロ	1 天云印	1 7 2 1 1	1		-		1	_
,	養教育科目計	10	7	4	1	4	2	0	0	_
	DC 4X FI 11T FI FI		2		1	7		U	Ü	_
				木食央部	·				İ	
			2							
		化学基礎実験	1				.		ļ	_
			1		公衆衛生学実習 1					
		解剖生理学 I		2						
				 解剖生理学実習 II 1 	İ		į			
		生化学 I	2 生化学Ⅱ	2 生化学実験 1			PHILIT 7 2 4 12	1		
					臨床医学 I 2	臨床医学Ⅱ	2 臨床医学Ⅲ	2		
	専門基礎分野				運動生理学 2					
	等门盔腿刀到	健康管理概論	2 公衆衛生学 I	2 公衆衛生学Ⅱ 2	公衆衛生学実習 1					
		解剖生理学 I	2 解剖生理学 II	2 解剖生理学実習 I 1	解剖生理学実習Ⅱ 1					
		生化学 I	i	2 生化学実験 1			臨床医学実習	1		
					臨床医学 I 2	臨床医学Ⅱ	1	2		
					運動生理学 2		z minet - m	-		
		調理学実習 I	1 調理学実習 I	1	座數工柱子 2		-			-
		副任于关自 1	1		į				ļ	
				2	1					
		食品学 I			食品衛生学 2					
事					食品衛生学実験 1		<u> </u>		ļ	
明			基礎栄養学I		基礎栄養学実験 1		į.			
.1			İ	食事摂取基準論 1	•		ļ			
科			İ	栄養管理プロセス論 1	. [ļ			
				応用栄養学 I 2	応用栄養学Ⅱ 2					
Ħ			į		応用栄養学実習 1					
					栄養教育論 I 2	栄養教育論Ⅱ	2			
						栄養教育論実習I	1 栄養教育論実習Ⅱ	1		
							栄養カウンセリング論	2		
					臨床栄養学 I 2	臨床栄養学Ⅱ		2		-
	専門分野				MILIPROPERTY IN CO.		1 栄養評価管理実習	_		
						山水不及于天日	在宅栄養管理論	2		
			+		公衆栄養学 I 2	公衆栄養学Ⅱ	2	4		-
					公米木食子1 2		1			
						公衆栄養学実習	1			
				食事設計演習 1	1					
				給食経営管理論 I 2	給食経営管理論Ⅱ2	給食経営管理論実習	1			
			<u> </u>		<u> </u>	栄養実習事前·事後演習	1	臨床総合演習 1		
			İ		İ		臨地実習A(給食基礎)	1 臨地実習C(臨床) 2	İ	
			į				臨地実習B(公衆栄養・給食応用)	1		
	アップグレード分野					食物とアレルギー	2 健康栄養情報処理演習	1		
	キャリア教育分野	管理栄養士への道	1		基礎キャリア教育 1	専門実践実習(疾病治療・量症化予防)	1			
	管理栄養士特論						管理栄養士特論A	2 管理栄養士特論B 2	管理栄養士特論C 3	3
	卒業研究				1			2 卒業研究 2		
			- i							-
7	門教育科目計	21	21	21	27	18	21	7	3	

[※] 表中のゴシック文字は必修科目、その他は選択科目。

管理栄養学科履修モデル②

管理栄養士(疾病予防)として必要な能力・知識の習得を目的とした履修モデル

	区分		1年次		2年	手次		年次		F次	آل
	区 分	前期	後期		前期	後期	前期	後期	前期	後期	٦
		潜在能力の開発	2 生活経済論	2	人間関係とコミュニケーション 2	i	日本国憲法 2	社会学 2			Ť
١		心理学	2 生活学概論	2			家族論 2				
.	教養分野		1 情報リテラシーⅡ				25.000				١
ı	4次元 万 利		1 1月報リノフシーⅡ	1 1							
۱		未来へつなくアウトリーナスタートアップ	1								
ļ		未来へつなぐアウトリーチ I	1		未来へつなくアウトリーチⅡ 1			<u> </u>			
l	保健体育分野	運動の科学	2 体育実技	1				İ		i	
	外国語分野	英語	1 英会話	1	中国語 1	ハングル 1					
	その他							į			
i	能 教 育 科 目 計	10	7		4	1	4	2	0	0	Ī
		生物学入門	2		栄養英語 1						
۱		化学入門	2			1					
۱		化学基礎実験	1			1					
		健康管理概論	2 公衆衛生学 I	9	公衆衛生学Ⅱ 2	公衆衛生学実習 1		<u> </u>			-
		解剖生理学I	2 解剖生理学Ⅱ	2	△米闸工子Ⅱ 2	五米南工于天日 1					
۱		胜 到 工 任 子 1	1	-	An del el you did obtain an	1					
۱					解剖生理学実習Ⅱ 1						
ı		生化学 I	2 生化学Ⅱ	2	生化学実験 1	1		臨床医学実習 1			
						臨床医学 I 2	臨床医学Ⅱ 2	臨床医学Ⅲ 2			
۱	専門基礎分野					運動生理学 2		İ			
۱	守口をWEカガ	健康管理概論	2 公衆衛生学 I	2	公衆衛生学Ⅱ 2	公衆衛生学実習 1					
		解剖生理学 I	2 解剖生理学Ⅱ	2	解剖生理学実習 I 1	解剖生理学実習Ⅱ 1					
		生化学 I	2 生化学Ⅱ		生化学実験 1			臨床医学実習 1			
				_		臨床医学 I 2	臨床医学Ⅱ 2	臨床医学Ⅲ 2			
۱						運動生理学 2		THE PROPERTY OF			
		調理学実習 I	1 調理学実習 I	1		運動生柱子 2	-	<u> </u>			-
		調理子美質」	1	-		1					
۱			調理科学	2		l					
		食品学 I	2 食品学Ⅱ	2	食品学Ⅲ 2	食品衛生学 2					
ı			食品学実験 I	1	食品学実験Ⅱ 1	食品衛生学実験 1					
. 1			基礎栄養学 I	2	基礎栄養学Ⅱ 2	基礎栄養学実験 1					
£			i		食事摂取基準論 1	ĺ		į			
1					栄養管理プロセス論 1	1					
1						応用栄養学Ⅱ 2					
1					-	応用栄養学実習 1					
			i				栄養教育論Ⅱ 2	!			-
1						木食牧育細 1 2		1			
١							宋養教育編美省 1 1	栄養教育論実習Ⅱ 1			
								栄養カウンセリング論 2			
	専門分野		į			臨床栄養学 I 2		臨床栄養学Ⅲ 2			
	411,000		•			1	臨床栄養学実習 1	栄養評価管理実習 1			
١								在宅栄養管理論 2			
١			į			公衆栄養学 I 2	公衆栄養学Ⅱ 2	İ			
١							公衆栄養学実習 1	İ			
١					食事設計演習 1						
١						給食経営管理論Ⅱ2	総合経営管理論実習 1				
			i		和及社员各注册 1 2	和政社自己生品工艺	栄養実習事前·事後演習 1	1	臨床総合演習 1		-
١						<u> </u>	本货类当参则"参饮项省]	1	PHI PI TO BE DO CO		-
								臨地実習A(給食基礎) 1	臨地実習C(臨床) 2		
ļ								臨地実習B(公衆栄養・給食応用) 1			
							食物とアレルギー 2	健康栄養情報処理演習 1	1		
	アップグレード分野				健康運動学 2	健康運動演習 1	1		1		
ı	/ / / / * I // *I				健康運動実技A 1	健康運動実技B 1	健康運動実技C 1		1		
			1			1	健康運動実技D 1	•	1		
ŀ	キャリア教育分野	管理栄養士への道	1		İ	基礎キャリア教育 1	専門実践実習(疾病予防) 1	i	İ	i	-
	管理栄養士特論		- 				-		管理栄養士特論B 2	管理栄養士特論C 3	
	卒業研究	- 	- 			<u>i</u> !	 	卒業研究 2			-
_		21	21		24	29	20	平来研究 2 21	平未研究 2 7	3	-
. [門教育科目計						1				_
	計	31	28		28	30	24	23	7	3	

[※] 表中のゴシック文字は必修科目、その他は選択科目。

管理栄養学科履修モデル③

管理栄養士(食育・食環境)として必要な能力・知識の習得を目的とした履修モデル

		_	<u>、20 女 6 配 /) /</u> 1年次		ヨ的とした復修 - 2年次		3年次	4年	次	=1
区	分	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	計
		潜在能力の開発	2 生活経済論	2 人間関係とコミュニケーション	2	日本国憲法	2 社会学 2	2		
		心理学	2 生活学概論	2		家族論	2			
基 教養分野		情報リテラシー I	1 情報リテラシーⅡ	1						6
磁		未来へつなぐアウトリーチスタートアップ	1							
科		未来へつなぐアウトリーチ I	1	未来へつなぐアウトリーチⅡ	1					
保健体育分野		運動の科学	2 体育実技	1						
外国語分野		英語	1 英会話	1 中国語	1 ハングル 1					
その他										
数 養 教 育 科	目計	10	7	4	1	4	2	0	0	2
		生物学入門	2	栄養英語	1					
		化学入門	2							
		化学基礎実験	1							
		健康管理概論	2 公衆衛生学 I	2 公衆衛生学Ⅱ	2 公衆衛生学実習 1					7
		解剖生理学 I	2 解剖生理学 II	2						
			解剖生理学実習 I	1 解剖生理学実習Ⅱ	1					
		生化学 I	2 生化学Ⅱ	2 生化学実験	1		臨床医学実習	ı		
						臨床医学Ⅱ	2 臨床医学Ⅲ 2	2		
					運動生理学 2					
専門基礎分野		健康管理概論	2 公衆衛生学 I	2 公衆衛生学Ⅱ	2 公衆衛生学実習 1					4
		解剖生理学 I	2 解剖生理学Ⅱ		1 解剖生理学実習 Ⅱ 1					
		生化学 I	2 生化学Ⅱ	2 生化学実験	1		臨床医学実習	L		
				,,_,,,,,,	臨床医学 I 2	 臨床医学Ⅱ		2		
					運動生理学 2					
		調理学実習 I	 1 調理学実習 I	1						\dashv
		m 1 / 1 -	調理科学	2						
		食品学 I	2 食品学Ⅱ	-	2 食品衛生学 2					
		ECHH J	を品学実験 I		1 食品衛生学実験 1					
専			基礎栄養学 I		2 基礎栄養学実験 1					+
HH					1					\dashv
門				栄養管理プロセス論	1					
科					2 応用栄養学 1 2					
_目 I					応用栄養学実習 1					
H			<u> </u>			栄養教育論 Ⅱ	2			\dashv
							- 1 栄養教育論実習Ⅱ			
							栄養カウンセリング論(
					 臨床栄養学 I 2	┃ 臨床栄養学 Ⅱ	- 	2		\dashv
専門分野							1 栄養評価管理実習			4
							在宅栄養管理論	1		
						公衆栄養学Ⅱ	2			\dashv
						l	1			
				食事設計演習	1					
					2 給食経営管理論 □ 2	給食経営管理論実習	1			
						栄養実習事前・事後演習		臨床総合演習 1		\exists
							臨地実習A(給食基礎)	+		\dashv
							臨地実習B(公衆栄養・給食応用)	1		
						食物とアレルギー	2 健康栄養情報処理演習	1		+
アップグレード	分野						商品開発論 2	2		
キャリア教育分	·野	ー 管理栄養士への道	1		<u> </u>	専門実践実習(食育・食環境)	:			+
管理栄養士特		日子小良工 "少但	-		空帐1177 扶月 1	and the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of th			管理栄養十特論C	3
卒業研究	HIN	+	<u>i</u>	+	<u>:</u>	+		2 卒業研究 2		-
字門教育科	日計	21	21	21	27	18	23	7	3	14
子 门 教 月 <i>村</i>	н ні	31	28	25	28	22	25	7	3	16

[※] 表中のゴシック文字は必修科目、その他は選択科目。

管理栄養学科履修モデル④

栄養教諭として必要な能力・知識の習得を目的とした履修モデル

	<u> </u>		年次		手次	3:	年次	44	年次	T
	区 分	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	Tip.
		潜在能力の開発	2 生活経済論 2	人間関係とコミュニケーション 2		日本国憲法 2	社会学 2			T
			2 生活学概論 2	_		家族論 2	ii			
教養を	ク 郵を		1 情報リテラシーⅡ 1			25.00			į	
教養を	1>1	円 〒Kグノ ノン 1 未来へつなくアウトリーサスタートアップ	1 旧 和X フ / ノン II I						ļ	
		未来へつなぐアウトリーチ!	1	未来へつなぐアクトリーチョ 1					ļ	
	4-5r /\ mr		1 the stretch to	未来へつなぐアクトリーチII 1	<u> </u>		<u> </u>		<u> </u>	+
DK ME K	本育分野		2 体育実技 1		ļ		1		<u> </u>	+
外国部		英語	1 英会話 1	中国語 1	ハングル 1		<u> </u>		<u> </u>	4
その他			<u> </u>		ļ		<u> </u>		!	+
養教	育科目計	10	7	4	1	4	2	0	0	4
		生物学入門	2	栄養英語 1	}				ŀ	
		化学入門	2						ļ	
		化学基礎実験	1						ļ	ı
		健康管理概論	2 公衆衛生学 I 2	公衆衛生学 Ⅱ 2	公衆衛生学実習 1		i		į	1
		解剖生理学 I	2 解剖生理学 Ⅱ 2						į	ı
			解剖生理学実習 1 1	解剖生理学実習Ⅱ 1					į	ı
		生化学 I	1	生化学実験 1	1		臨床医学実習 1		į	ı
1			-1-10.1	1 1 1 1 1 1 1	•	臨床医学Ⅱ 2	2 臨床医学Ⅲ 2			1
					運動生理学 2		mmetm 2		į	ı
専門基	基礎分野	(A) (本) (A) (A) (A) (A)	0. 八曲体上出 0	八曲衛牛尚 T 0	公衆衞生学実習 1				į	ı
			i i						•	
			!	解剖生理学実習 I 1	解剖生埋字実省Ⅱ]				İ	
		生化学I	2 生化学Ⅱ 2	生化学実験 1	L		臨床医学実習 1		i	ı
						臨床医学Ⅱ 2	2 臨床医学Ⅲ 2		į.	ı
			1		運動生理学 2		!		!	┙
		調理学実習 I	1 調理学実習 I 1							ı
			調理科学 2						ļ	ı
		食品学 I	2 食品学Ⅱ 2	食品学Ⅲ 2	食品衛生学 2				ļ	ı
			食品学実験 I 1	食品学実験Ⅱ 1	食品衛生学実験 1				į.	
			基礎栄養学 I 2	基礎栄養学Ⅱ 2	基礎栄養学実験 1					T
				食事摂取基準論 1	İ					1
				栄養管理プロセス論 1					ļ	
					応用栄養学Ⅱ 2				ļ	ı
				70717本東子1 2	応用栄養学実習 1				į	ı
						栄養教育論 Ⅱ 2			<u> </u>	┨
					未受祭月訓 2		AND THE THE THOMAS AT THE THE		į	ı
					į	宋養教育譜実省Ⅰ	栄養教育論実習Ⅱ 1		į	ı
							栄養カウンセリング論 2		<u> </u>	4
専門分	子野				臨床栄養学 I 2		2 臨床栄養学Ⅲ 2		1	ı
					1	臨床栄養学実習 1	栄養評価管理実習 1		1	ı
					į		在宅栄養管理論 2		ļ	
					公衆栄養学 I 2	公衆栄養学Ⅱ 2	2			1
			1			公衆栄養学実習	ı İ		Ì	
			İ	食事設計演習 1	į		İ		ļ	ı
					給食経営管理論 1 2	給食経営管理論実習	ı I		•	
						栄養実習事前·事後演習	1	臨床総合演習 1	<u> </u>	٦
			1				臨地実習A(給食基礎) 1	臨地実習C(臨床) 2		1
							臨地英習B(公衆常養・給食応用) 1	MIPE X B C (MIPH)	1	ı
-2	グレード分野		1		ļ	食物とアレルギー 2	健康栄養情報処理演習 1		!	+
		ATTEMATION OF LOOK	,		to tak do		建原本XIII		ļ	+
	ア教育分野	管理栄養士への道	1		基礎キャリア教育 1	専門実践実習(食育·食環境)	Annual of the Control of	AND	Annual VI and I do no	+
	长養士特論				İ		管理栄養士特論A 2		管理栄養士特論C 3	4
卒業研							卒業研究 2	卒業研究 2	ļ	4
門教	育科目計	21	21	21	27	18	19	7	3	┙
		教職入門	2 教育原理 2		特別支援教育論 2	総合的な学修の時間の指導法 2	教育課程論 2		1	1
			教育制度論 2		教育方法論 2		道徳教育の理論と実践 2			١
養に係る	教育に関する科目		教育心理学 2	1	生徒指導論 2		特別活動の指導法 2		1	1
					İ	254-40-254-384-445-286-454-4-4-4-4-4-4-4-4-4-4-4-4-4-4-4-4-4-	教育相談(カウンセリングを含む) 2	ete 700 Ho ide	į	1
					İ	子伙釆賽指導舗 1 2	2 学校栄養指導論Ⅱ 2 ************************************		MARKETER OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF	, I
参けるだっ	教育に関する科目 計	2	6	1	6	4	教職特別講座(栄養教諭) 1 11	栄養教育実習 1	教職実践演習(栄養教論) 2	+
	3ス日に関りる作日 訂			0.5				- 4	2	+
計		33	34	25	34	26	32	9	5	П

[※] 表中のゴシック文字は必修科目、その他は選択科目。

平成30年度臨地実習一覧(臨地実習A(給食基礎))

No.	施設	 ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' '	郵便番号	住所	TeL番号	人数
1	株式会社魚国総本社名古屋本部	株式会社デンソー湖西製作所内事業所	431-0493	静岡県湖西市梅田390 株式会社デンソー 湖西製作所内	053-577-1086	4
2		リクシル知多	478-0046	知多市北浜町25-7 株式会社リクシル知多事業所内	0562-33-6697	3
3	\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	デンソー本社4号館	448-8661	刈谷市昭和町1−1 株式会社デンソー内	0566-62-5765	3
4	ジー・エイチ・ホスピタリティフードサービス中部株式会社 	デンソー本社5号館	448-8661	刈谷市昭和町1−1 株式会社デンソー内	0566-28-5802	6
5		デンソー本社中央食堂	448-8661	刈谷市昭和町1−1 株式会社デンソー内	0566-23-7023	3
6		JPタワー名古屋	450-6390	名古屋市中村区名駅1-1-1 JPタワー名古屋内	052-571-0900	2
7	日本ゼネラルフード株式会社 中日新聞社		460-0001	名古屋市中区三の丸1-6-1	052-243-6107	2
8	富士産業株式会社名古屋事業部 ひまわり		447-0803	碧南市三角町一丁目7-1	0566-41-7178	2
9	株式会社勤労食 (安城)アイシン・エィ・ダブリュ株式会社 本社		444 -119	愛知県安城市藤井町高根10番地	0566-22-8151	11

平成30年度臨地実習一覧(臨地実習B(給食応用·公衆栄養))

No.	施設名	₹	住所	TeL番号	人数
1	愛厚ホーム豊川苑	442-0863	豊川市平尾町諏訪下73-1	0533-87-2577	2
2	愛厚木一厶西尾苑	445-0082	西尾市八ツ面町蔵屋敷120	0563-56-7350	2
3	愛厚木一厶岡崎苑	444-3524	岡崎市竜泉寺町字松本34-6	0564-52-7715	2
4	愛厚希全の里	441-1231	豊川市一宮町上新切33番地267	0533-93-2062	2
5	社会福祉法人サン・ビジョン グレイスフル熱田	456-0033	名古屋市熱田区花表町1-26	052-855-2211	1
6	なごやかハウス岳見	467-0043	名古屋市瑞穂区岳見町三丁目4番地の1	052-837-4917	2
7	オーネスト熱田の杜	456-0052	名古屋市熱田区二番1-5-8	052-678-3388	3
8	社会福祉法人不二福祉事業会 特養 五井眺海園	443-0003	蒲郡市五井町五反田7-1	0533-67-1055	1
9	ジョイフル 名駅(特養)	450-0002	名古屋市中村区名駅5-25-12	052-533-9321	1
10	医療法人仁医会 西尾老人保健施設	445-0073	愛知県西尾市寄住町洲田20-1	0563-57-1552	4
11	社会福祉法人せんねん村	445-0054	愛知県西尾市矢曽根町蓮雲寺29-1	0563-65-6551	4
12	社会福祉法人觀寿々会安寿の郷ホーム	446-0014	愛知県安城市別郷町油石105	0566-76-6133	2
13	社会福祉法人豊生会 特別養護老人ホーム彩幸	441-3213	愛知県豊橋市西赤沢町字深山95番地	0532-23-6011	2
14	社会福祉法人愛光園 ひかりのさと のぞみの家	470-2102	愛知県知多郡東浦町緒川東米田56番地	0562-83-9938	2
15	社会福祉法人 瑞穂会 第二やはぎ苑	444-0908	愛知県岡崎市橋目町字恵香16番地	0564-33-3123	2
16	社会福祉法人福寿園 特別養護老人ホームみなみ福寿園	470-1206	愛知県豊田市永覚新町5-194	0565-24-8888	2
17	ジョイステイ	471-0821	愛知県豊田市平和町1丁目1番地	0565-24-0620	2
19	社会福祉法人 西三河子供の家 第2こぐま保育園	448-0805	刈谷市半城土町中ノ湫110	0566-93-1651	2
20	社会福祉法人フィロス 刈谷ゆめの樹保育園	448-0003	刈谷市一ツ木町3丁目5番5	0566-45-7211	2
21	社会福祉法人 育生会 子宝保育園	446-0071	安城市今池町1丁目24番地18	0566-97-8588	3

平成30年度臨地実習一覧(臨地実習B(給食応用·公衆栄養))

No	施設名	郵便番号	住所	電話番号	総人数
1	岡崎市保健所	444-8545	 愛知県岡崎市若宮町2丁目1番地1岡崎げんき館2階	0564-23-6179	10
2	あいち健康プラザ	470-2101	知多郡東浦町大字森岡字源吾山1-1	0562-82-0211(代)	6
3	西尾保健所	445-0073	西尾市寄住町下田12番地	0563-56-5241	9
4	新城保健所	441-1326	愛知県新城市字中野6-1	0536-22-2203	15
5	豊川保健所	442-0068	愛知県豊川市諏訪3丁目237	0533-86-3188	10

平成30年度臨地実習一覧(臨地実習C(臨床))

No.	施設名	₹	住所	TEL	人数
1	静岡県厚生農業協同組合連合会 遠州病院	430-0929	静岡県浜松市中区中央1丁目1番1号	053-453-1111	2
2	聖隷三方原病院	433-8558	静岡県浜松市北区三方原町3453	053-438-1126(直通)	2
3	聖隷浜松病院	430-8558	静岡県浜松市中区住吉2-12-12	053-474-2222 (直通)2231	2
4	浜松医科大学医学部附属病院	431-3192	静岡県浜松市東区半田山1丁目20番1号	053-435-2612(直)	2
5	独立行政法人 国立病院機構 名古屋医療センター	460-0001	名古屋市中区三の丸4丁目1番1号	052-951-1111	4
6	医療法人愛知会 家田病院	470-1219	愛知県豊田市畝部西町城ヶ堀11-1	0565-21-0500	1
7	西尾市民病院	445-8510	愛知県西尾市熊味町上泡原6番地	0563-56-3171	2
8	医療法人宝美会 豊川青山病院	442-0827	愛知県豊川市西島町中井33-1	0533-86-8125	2
9	医療法人名南会 名南病院	457-0856	愛知県名古屋市南区南陽通5-1-3	052-691-3402	2
10	西尾病院	445-0824	愛知県西尾市和泉町22	0563-53-5558(直)	2
11	医療法人豊水会 みずのクリニック	470-1152	愛知県豊明市前後町仙人塚1767	0562-93-0021	2
12	名古屋掖済会病院	444-8502	愛知県名古屋中川区松年町4-66	052-652-7711	2
13	名古屋大学医学部附属病院	466-8560	名古屋市昭和区鶴舞町65	052-744-2870(直)	6
14	愛知県厚生農業協同組合連合会 足助病院	444-2351	愛知県豊田市岩神町仲田20	0565-62-1279	2
15	国家公務員共済組合連合会 名城病院	461-0001	名古屋市中区三の丸一丁目3番1号	052-201-5311	3
16	愛知県厚生農業協同組合連合会 安城更生病院	446-8602	安城市安城町東広畔28	0566-75-2111	2
17	医療法人 博報会 岡崎東病院	444-0008	岡崎市洞町向山16-2	0564-22-6616	3
18	医療法人 積善会 積善病院	441-3151	愛知県豊橋市二川町字北裏1-17	0532-41-0800	2
19	愛知県がんセンター中央病院	464-8681	名古屋市千種区鹿子殿1-1	052-764-2917(直)	4
20	岡崎市民病院	444-8553	岡崎市高隆寺町字五所合3-1	0566-66-7037(直)	2
21	医療法人 宝美会 総合青山病院	441-0195	豊川市小坂井町道地100-1	0533-73-3777	2
22	愛知県厚生農業協同組合連合会 渥美病院	441-3415	田原市神戸町赤石1-1	0531-22-2131	2
23	医療法人純正会 名古屋市立緑市民病院	458-0037	名古屋市緑区潮見が丘1-77	052-892-1331	1
24	豊橋市民病院	441-8570	豊橋市青竹町字八間西50	0532-33-6319(直)	1
25	半田市立半田病院	475-8599	半田市東洋町2丁目29番地	0569-22-9881	2

教育実習先一覧<栄養教諭>(平成29年度実績)

(小学校)

(·1·于汉)				
実習校名	所在地			
岡崎市立矢作南小学校	愛知県岡崎市大和町字西島13番地			
幸田町立豊坂小学校	愛知県額田郡幸田町大字野場字鶏島55			
岡崎市立根石小学校	愛知県岡崎市欠町石ヶ崎1-2			
豊明市立中央小学校	愛知県豊明市新田町西筋38番地			

(中学校)

実習校名	所在地
なし	

教育実習先一覧〈栄養教諭〉(平成30年度実績)

(小学校)

実習校名	所在地
安城市立志貴小学校	愛知県安城市柿町御用地45番地
安城市立桜町小学校	愛知県安城市桜町15番5号
豊橋市立中野小学校	愛知県豊橋市橋良町字向山6番地の4
安城市立今池小学校	愛知県安城市今池町2丁目1番地52
刈谷市立衣浦小学校	愛知県刈谷市天王町3丁目27番地
西尾市立吉田小学校	愛知県西尾市吉良町吉田大切間18番地

(中学校)

実習校名	所在地
なし	

教育実習先一覧〈栄養教諭〉(平成31年度予定)

(小学校)

実習校名	所在地
稲沢市立牧川小学校	愛知県稲沢市祖父江町両寺内砂崎990番地

(中学校)

実習校名	所在地
岡崎市立矢作中学校	愛知県岡崎市暮戸町字蓮台18番地
清須市立西枇杷島中学校	愛知県清須市西枇杷島町七畝割3番地1